

【施策評価調査】

施策名	5-2-4	若者の居場所づくり		118	次代を担う青少年を健全に育成することは、大人の責務です。育成には、家庭教育、学校教育、社会教育等が、その代表的なものとしてあげられますが、施策の実施にあたっては、それらを一体化し、親や地域を巻き込みながら、一緒になって育成活動、各種の体験事業、社会貢献活動を展開することによって、物事に主体的に取り組む姿勢を身につけ、思考の柔軟性、感受性、幅広い人間性を磨き、豊かな人間性を持った青少年を育成します。 本事業は、「不登校」や「ひきこもり」等の現状も把握しながら、「青少年にとって何が必要なか」検討を加えていきます。
		高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	教育部生涯学習課	担当 リーダー	社会教育担当 横塚恵子		
環境変化	近年、青少年を取り巻く環境が大きく変化し、家庭教育力、地域教育力が低下していると言われている。			施策内容	ニートやひきこもりの青少年を対象として、若者の居場所を1箇所設置し、カウンセリングを行いながら社会の一員としての必要な規範、価値意識、行動様式を身に付けさせ、社会人としての自立を支援します。(「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)

指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：居場所に集う若者の延べ人数(人)	平成16年度 0人	計画 実績			100人 53人	250人	400人
指標：居場所の設置数	平成16年度 未設置	計画 実績			1箇所 0箇所	1箇所	1箇所
指標：		計画 実績					
指標：		計画 実績					
指標に関する特記事項							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	14,000	53,000	280,000		
	決算	13,929	12,552	275,369		

事務事業事後評価 20年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか?(アウトカム)			
若者の居場所設置事業費	当初 280,000	若者の居場所設置数	A	若者の居場所設置には至らなかったが、若者の現状を知る講座や中学生を対象とする講演会は、不登校・引きこもりとなっている若者の現状や悩みを知る効果的な研修であったと思う。またこの講演会・講座の参加者からは、学んだことを生かしていきたいという声もあるのでその思いを大事にしていきたい。今後若者を支援してくれる人材となってくれるものと期待したい。			
	決算 275,369	0箇所 / 1箇所		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
	当初			今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	当初			今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	

施策事後評価 20年度の検証

自己評価	施策達成状況に関する評価		課題と今後の方向性	
	施策の評価指標に掲げた目標値を達成することはできなかったが、中学生に夢や希望を育むための講演会や一人で悩んでいる若者にどう接するのか考える講座などの取組みに対しては評価できる。居場所設置については根本的に見直し、当面は悩む若者のサポート体制ができるように努めている。		数回にわたり若者の現状を知る講座から、現代の青少年が抱える様々な問題に対し、青少年の心を理解し、大人にできること、地域で出来ることを考えていく。町は、問題解決に向けた取組み方を関係機関団体とともに検討していくものとし、サポート体制の充実を図っていくものとする。居場所設置については、広域的な整備として近隣市町や専門的な機関に委ねるのが妥当と考え、設置しない。	
総合評価	■ 総合評価 ■ 継続的に施策展開されていると評価する。ただし、後期計画策定に向け、サポートが必要とされる若者が、どのくらいいるのか把握するとともに、どのようなイメージでサポートの場を提供するのか、他課や関係機関、NPO団体等との連携を図った施策展開を検討すること。また、それに併せた施策指標も見直すこと。			